

平成三十年度 へ中学校へ帰国生入学試験【帰国生アドバンスト選考】 日本語作文

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(問いに字数指定のある場合は、句読点や符号も一字と数えます)

ロンドンの観光名所として知られる時計塔ビッグベンやウェストミンスター寺院。ここからテムズ川を横切った対岸に、ロンドンと南西地域を①結ぶウォーターloo 駅がある。そこから歩くこと約十分。下町の雰囲気ふんいきが漂う通りを抜けると、小学校らしい建物が見えてくる。高い塀へいにぐるりと囲まれた都会の校舎の全景は、通りからはよく見えない。番地を②確認して重い扉を開けると、肌の色もさまざまな子どもたちが楽しそうに遊んでいた。受付には、移民してきた保護者のために六か国語で③アンナイが貼り出されてあった。多文化都市ロンドンの一面である。

イギリスでは、メディアについて教えることが「国語」(英語)の授業の一部に取り入れられている。日本でいう四年生の生徒たちは、まだまだあどけない。おしゃべりがやまないので見かねた先生が、手を打って④アイズをすると、教室が急にしいんとなった。

子どもたちが大好きな、メディアの授業の始まりだ。

「ステレオタイプって何だったか⑤オポえている?」

先生が問いかけると、たくさんの手が挙がった。

「ある特定のイメージで、人とか物についていうこと。」自信たっぷりじゆんたっぷりに男の子が答えた。

「コンピューターゲームのマーシャルは、男の子しか出てこないでしょ。私だってやっているのにおかしいわ。」と、女の子。

「マーシャルに出てくる家族は、きまって優しいお父さんとお母さん、かわいい男の子と女の子。おまけに、みんなとても幸せそう。でも、これって何か変じゃない?」今度は、女の子が⑥疑問を投げかけた。

生徒たちは、「メディアの現実」と「自分たちの現実」を比べることで、メディアが⑦映し出す世界を認識する作業をしているのだ。マーシャルは、商品売ることを目的に「作られた」ものであり、現実そのものではないが、「女の子らしさ」「幸せな家族」というイメージは、子どもたちの周りにあふれている。授業では、それらが必ずしも「本当のこと」や「⑧テンケイテキな例」でないことを、生徒たちに気づかせていった。

イギリスでは、「国語」の授業が確実に変わってきている。文字の読み書きや文学の読解に加えて、子どもたちが日常的に接するテレビ、映画、ラジオ、広告などのマスメディアについて教えることが⑨ティチャクしつつあるのだ。

日本に住む私たちも、日々、さまざまなメディアに接しながら⑩クらししている。私たちもまた、メディアについて学ぶ必要があるのではないだろうか。

(菅谷明子『メディア・リテラシー』より)

問一 線①～⑩のカタカナは漢字に直し、漢字については読みかたをひらがなで答えなさい。

問二 イギリスでは、「国語」(英語)の授業がどのように変わってきていると述べられていますか。文中のことは使って説明しなさい。

問三 右の文章をふまえた上で、あなたはかえつ有明中学校の「国語」(日本語)でどのようなことを学びたいと考えていますか。これまであなたが受けてきた「国語」(ことばの学習)を紹介しながら、四百字以内で書きなさい。